

ー学術フォーラムー

人類学、経済学、工学、教育学者が
共創する日本の将来図

実施報告書

2016年5月 吉日

1. 開催概要

開催タイトル：学術フォーラム
人類学、経済学、工学、教育学者が共創する日本の将来図

開催日時：2016年5月7日（土）

開催場所：八芳園（東京都港区白金台1-1-1）

参加人数：第一部：フォーラム 150名
第二部：懇親会 70名

主催：特定非営利活動法人 次代の創造工房

特別協賛：一般財団法人 日本児童教育振興財団

協賛：朝日生命保険相互会社、株式会社NTTドコモ、鹿島建設株式会社
株式会社小糸製作所、信和産業株式会社、
ビッグホリデー株式会社、三菱電機株式会社
日本フィジカルアコースティクス株式会社

後援：外務省、経済産業省

特別協力：八芳園

協力：株式会社LA DITTA、ヒーローズエデュテイメント株式会社、
Support Our Kids実行委員会

2. スケジュール

◆第一部：フォーラム

13：00～13：10 (10) オープニング：湯山 茂徳氏（実行委員長）
開会のご挨拶

13：10～13：40 (30) プログラム①：長谷川 眞理子氏
「人類進化史から見た現代社会」

13：50～14：20 (30) プログラム②：伊藤 元重氏
「日本経済再生への道」

14：20～14：35 休憩

14：35～15：05 (30) プログラム③：岸 輝雄氏
「科学技術による外交」

15：15～15：45 (30) プログラム④：明和 政子氏
「ヒトの心を育てる教育とは」

15：45～16：00 休憩

16：00～16：45 (45) プログラム⑤：パネルディスカッションⅠ
「日本人のあるべき姿-21世紀像」

16：45～16：55 休憩

16：55～17：40 (45) プログラム⑥：パネルディスカッションⅡ
「日本人のあるべき姿-21世紀像」

◆第二部：懇親会

18：00～19：30 (90)

3-1. 登壇者ご紹介

13:00～13:10 | 開会挨拶 |

登壇者



実行委員長

湯山 茂徳

Shigenori Yuyama

プロフィール

京都大学経営管理大学院特命教授。博士(工学・学術)。1976年東京大学工学部卒業。1977～78年フランス国立原子力研究所勤務。1983年MISTRAS Group, Inc. 日本法人設立に伴い代表取締役就任。2009年MISTRAS Group, Inc.のニューヨーク証券取引所上場により日本担当VP就任。専門：材料評価学、非破壊検査工学、構造物診断学、エンタテインメントビジネスマネジメント。主な著書：『Acoustic Emission Beyond the Millennium』『京都大学経営管理大学院エンタテインメントビジネスマネジメント講義録』。

13:10～13:40 | プログラム 1 |

テーマ

人類進化史から見た現代社会

登壇者



人類学者

長谷川 真理子

Mariko Hasegawa

講演概要

技術の進歩によって現代社会は急速に変化しているが、私たちヒトは、その進化史のほとんどを狩猟採集民として暮らしてきた。進化で作られたからだと心が、現代社会にどう対応しているのか、「最近の20万年」から現代を見てみたい。

プロフィール

総合研究大学院大学理事・副学長。国家公安委員会委員。1976年東京大学理学部生物学科卒業。1983年同大学院理学系研究科人類学専攻博士課程修了。1980年タンザニア野生動物局にてJICA派遣専門家。1992・1994年イェール大学人類学部客員准教授。2000年早稲田大学政治経済学部教授。2006年総合研究大学院大学葉山高等研究センター教授。2007年同大生命共生体進化学専攻専攻長。2011年同大先端科学研究科研究科長。専門：行動生態学、進化生物学(人類学)。主な著書：『進化と人間行動』『生き物をめぐる4つのなぜ』等。

13:50～14:20 | プログラム 2 |

テーマ

日本経済再生への道

登壇者



経済学者

伊藤 元重

Motoshige Ito

講演概要

少子高齢化、デフレマインドの蔓延、経済成長につながらないイノベーションなど、日本は足元で苦しんでいる。これは日本だけでなく、先進国が共通して直面する長期停滞(secular stagnation)と呼ばれる現象だ。将来の明るい展望を見出すためには、少子高齢化や地球環境問題を課題解決するような社会的イノベーションを引き起こす必要がある。それを実現する上で、技術革新や経済のグローバル化の流れをどうとらえるのかということが鍵となる。

プロフィール

学習院大学国際社会科学部教授。税制調査会委員。復興推進委員会委員長。経済財政諮問会議議員。社会保障制度改革推進会議委員。公正取引委員会独占禁止懇話会会長。1974年東京大学経済学部経済学科卒業。1976年東京大学大学院経済学研究科修士課程修了。1978年東京大学大学院経済学研究科博士課程中退。1978年ロチェスター大学大学院経済学部博士課程修了。専門分野：国際経済学。主な著書：『伊藤元重が語るTPPの真実』『ビジネス・エコノミクス』等。



次代の
創造工房

3-2. 登壇者ご紹介

14:35～15:05 | プログラム 3 |

テーマ

科学技術による外交

登壇者



工学者

岸 輝雄

Teruo Kishi

講演概要

今日、データ社会の到来や地球環境、感染症等のグローバル課題の出現など国際社会の状況は激変しています。その中で、高い科学技術水準を誇る日本が科学技術を通じて世界に貢献することで、国際的な地位の向上や経済活動の環境づくりに大きく役立つものと考えられます。本講演では、昨年9月からの外務大臣科学技術顧問としての取組を説明しつつ、科学技術が外交において果たす役割について考察します。

プロフィール

東京大学名誉教授。国立研究開発法人物質・材料研究機構名誉顧問、新構造材料技術研究組合理事長。東京大学大学院工学系博士課程修了(工学博士)。1987年東京大学教授。1995年同大先端科学技術研究センター長。1997年日本学会会議員。2003年同副会長。2001年物質・材料研究機構理事長。2013年内閣府政策参与、科学技術政策・イノベーション担当PD。2015年外務省参与、外務大臣科学技術顧問。2016年科学技術振興機構(JST)上席フェロー。専門分野：高信頼性材料工学。主な著書：『材料概論』『現代工学の基礎』等。

15:15～15:45 | プログラム 4 |

テーマ

ヒトの心を育てる教育とは

登壇者



教育学者

明和 政子

Masako Myowa

講演概要

ヒトらしい心を育むにはどうすればよいのか。ヒト特有の認知機能とその個体発生、進化的、生物学的基盤をふまえた議論が今こそ必要となっています。ヒトの心の発達に必要な養育環境、社会、教育的側面を科学的根拠にもとづき検証、提案したいと思います。

プロフィール

京都大学大学院教育学研究科教授。東京大学客員教授。日本学会議連携会員。京都大学教育学部卒業。京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士(教育学)。1999年日本学術振興会特別研究員(PD)。2002年京都大学霊長類研究所研究員。2003年滋賀県立大学人間文化学部専任講師。2008年京都大学大学院教育学研究科准教授。専門分野：発達科学、認知科学。主な著書：『まねが育むヒトの心』『心が芽ばえるときーコミュニケーションの進化と発達』等。

4-1. オープニング

開会挨拶

登壇者



実行委員長

湯山 茂徳

Shigenori Yuyama

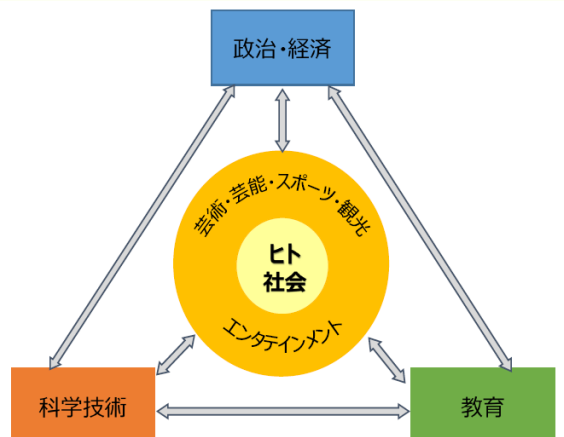
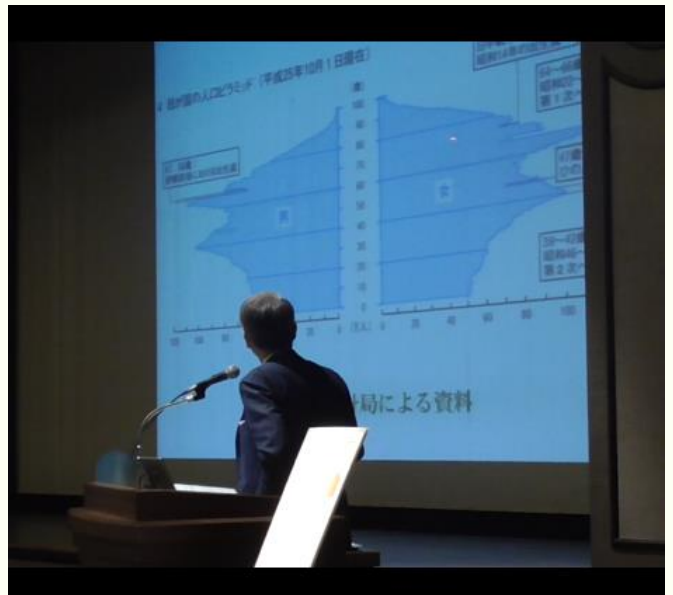
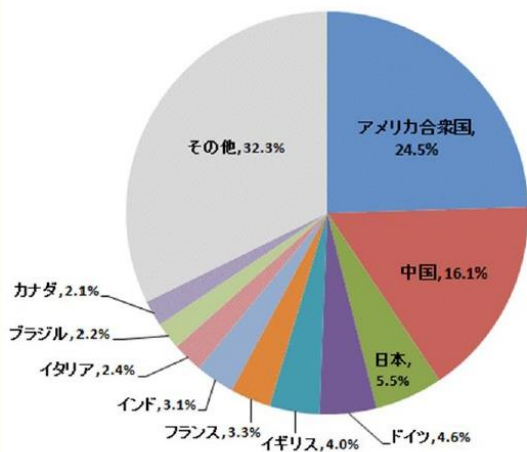
◆開会挨拶

- ・ 今回のフォーラムは、「知のエンタテイメント」として、知識を得る事、色々なこと学ぶことを楽しんでもらいたい。今日本が置かれている状況をお話し、今後どうしたら良いのか、明るい方向へ持っていくためにはどうしたら良いのかをお話しできればと思います。
- ・ 日本のGDPは全く成長してなく、アメリカは右肩上がりに成長している。2009年あたりには、日本は中国に抜かれ、その後、中国はものすごい勢いで成長している。また、世界全体に対するGDP比では、バブル期から現在までに日本と中国が全く入れ替わってしまっている。
→日本が抱えている問題は、このGDPの成長が止まってしまっていることである。
- ・ 現在の人口ピラミッドも日本の大きな問題である。
今年成人した人は、120万人で、我々の世代（60，70歳世代）は、260万人ほど。120万人で260万人を支えるのは到底無理なことである。
この問題をどのように解決するのが若い人たちに課せられた今後の課題となる。
- ・ ヒト社会というのは、「政治・経済」「教育」「科学技術」という3つが影響し合って成り立っているもの。「政治・経済」を動かすためには「科学技術」が無くては動かない。「教育」がなければ「科学技術」を作る人、「政治・経済」に関わる人は生まれない。
また、ヒトは、「エンタテイメント」というものがあると心の復興が行われる。
- ・ このような背景のもと、各分野で日本を代表する先生方にお集まり頂きました。ぜひとも「知のエンタテイメント」を楽しんで頂けたらと思います。

4-2. オープニング



世界全体に占める各国名目GDP比
(2016年、IMF予想)



5-1. プログラム①

テーマ

人類進化史から見た現代社会

登壇者



人類学者

長谷川真理子

Mariko Hasegawa

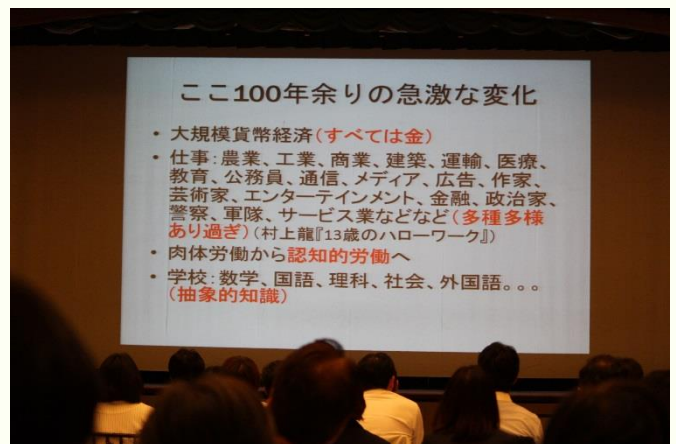
◆講演内容

- ・ 人類学の役割とは、ヒトという動物が進化してきた舞台と進化の道筋を解明し、ヒトの現在と将来に対する知見の提供をすること。
- ・ 文化環境（ヒトの遺伝子と脳が作る）と自然環境の適合により、私たちが生き残った。
- ・ こんなにも進化した生き物はヒトが初めてで異常である。ヒトがいるのは、当たり前ではなく、脳がいろいろなことを考えるのを進化のうちに作られた。
- ・ 狩猟採集時代、貧富の差はなく、取れたものは皆で分け合い、無駄に取ることをしなかった。→コミュニケーションが無くては生きていけない時代。性的な分業があるので、男女で共同しないといけない。長続きの秘訣は、共同作業。
- ・ かつてみんなで育てるのが当たり前だったが、現代になり、社会の変化により共同繁殖でお金を使わなくてはならなくなった。
大人になったら何になるのか、というのは最近難しいこと。
- ・ 現代社会は、「新奇」。人類が誕生してから600万年のうち劇的に変化のあるここ100年、私たちの脳と心の変化がついていけない。
また、貨幣経済となり、お金があれば、一人でも生きていける時代となった。
しかし、貨幣経済にもヒトはまだ対応できていないという現状がある。

◆お客様の声（実施のアンケートより）

- ・ 長谷川先生の人類の系譜から思考していくアプローチは、非常に本質的で、経済などのテーマもその観点でとらえ直すことで、経済も手段であるという考え方から社会を定義できるのではないかと思います。（30代 男性）
- ・ 人類の長い歴史の中でのここ100年の在り方、考え方、これからの在り方など、とても参考になりました。（40代 男性）

5-2. プログラム①



6-1. プログラム②

テーマ

日本経済再生への道

登壇者



経済学者

伊藤 元重

Motoshige Ito

◆講演内容

- ・先進国で一番初めに少子高齢化に直面している日本、また、人口減少が進む中、将来に投資をせず、投資の必要性を感じていない日本の今後の経済成長が進むとは思えない。
- ・今の日本経済は五右衛門風呂状態にある。アベノミクスで企業収益や雇用などは増えたが、消費や投資がなされていない。
- ・日本銀行は、マイナスの政策金利を行った。
つまり、今の日本銀行に撤退というシナリオはありえない。
- ・財政政策は、これまで封じられてきた。これだけ借金がある中で、減税や財政資質を増やしたら、借金が増えてしまう。これに加え、将来高齢化がどんどん進むと、年金などの費用により財政負担を高める。そのため、無駄な公共投資や減税は、意味がないと、封じられてきた。
→しかし、最近では、金融政策だけではなく、財政政策をしなければいけないのではないかという議論が広まり始めている。
- ・金融政策のさらに踏み込んだ金融政策と財政政策は非常に深い関係にある。
- ・デフレから脱却するための政策として、金融政策、財政政策、成長戦略の3つがある。
- ・今後、「ヘリコプターマネー」などの大胆な政策を行うなど、日本の財政赤字を黒字にすることが大切になる。

◆お客様の声（実施のアンケートより）

- ・伊藤元重先生のヘリコプターマネーという日本経済の今後の対策として、とても大胆な考え方でした。（30代 女性）
- ・伊藤先生は、ビジネスマンにとっては非常に切れ味が良く、わかりやすかったです。（50代 男性）

6-2. プログラム②



7-1. プログラム③

テーマ

科学技術による外交

登壇者



工学者

岸 輝雄

Teruo Kishi

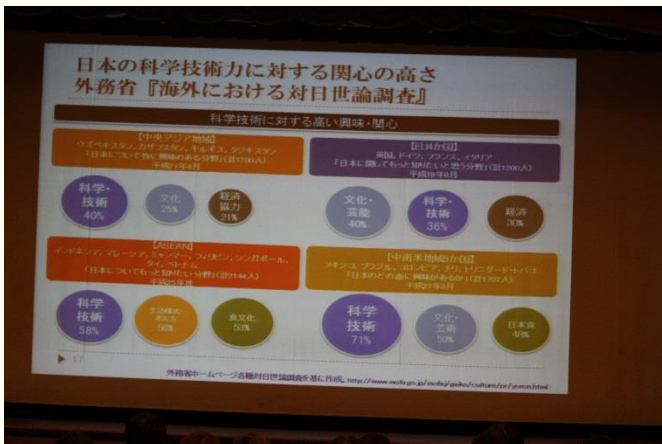
◆講演内容

- ・ 外務省の取り組みとして、国際社会にどう貢献するか、国際的リーダーシップ強化と途上国への投資（ODA）。→その「ODA」の中に科学技術を取り入れる。
- ・ 「科学技術」は、日本が世界に誇る「外交資源」。
世界（アメリカ、中央アジア、EU）が日本と聞いて、科学技術を思い浮かべ、期待している。
- ・ 戦略的に科学技術外交に取り組んでいくべきである。
→科学技術外交が進むと途上国への投資が増え、世界が回る可能性がある。
- ・ 地球化規模の問題を科学技術を用いて、解決してほしい。
アドバイザリーネットワーク（地球規模のネットワーク）を使ってほしい。
- ・ 日本は、基礎的な実験技術が素晴らしい。計算科学と実験科学で実験科学の部分は、非常に日本が卓越している。その点日本は自信を持ってよい。
→しかし、日本人自身がそのことにあまり自信を持っていなく、否定してしまうのが問題。
- ・ 現在では、科学技術の研究者の質が落ち、博士課程に進む学生も減っている。
ここに力を入れて、優秀な学者を育てる必要がある。
- ・ 今後は教育と科学技術の連動をはかり、Melting Pot（灼熱のるつぼ）のような研究環境を作り、オープンイノベーションの推奨が重要である。

◆お客様の声（実施のアンケートより）

- ・ 世界基準から見ても日本は科学技術が高いということで駆使できるところは有効活用し、世界に貢献することが重要であるという認識が高まった。
(40代 男性)
- ・ 外交と科学技術、日本の立ち位置、政策など興味深かった。(50代 男性)

7-2. プログラム③



8-1. プログラム④

テーマ

ヒトの心を育てる教育とは

登壇者



教育学者

明和 政子

Masako Myowa

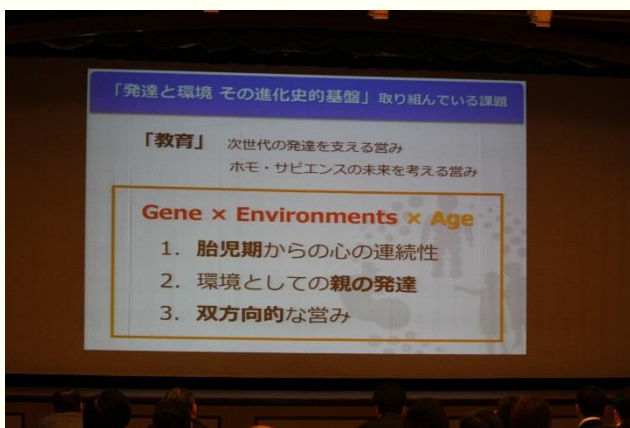
◆講演内容

- ・教育は、次世代の発達を支える重要な営み、ホモサピエンスがどのように未来を作っていくのかという点で重要。また、教育は子供のためであり、親のためでもある。
- ・本当の教育の要素とは、「遺伝」「環境」「年齢」
1. 胎児期からの心の連動性、2. 環境としての親の発達、3. 双方向的な営み
→AIで欠けているのは、双方向的な営み（大人⇄子ども）
- ・発達障害と診断される子どもの数が急速に加速している。これは、遺伝だけではなく、半数は原因不明。今後、胎児期からの心と体の環境を科学的に解明し、社会に提供することが課題。
- ・ホモサピエンスは、生まれる前から人とコミュニケーションを取る。
- ・マネは、人特有の能力。チンパンジーとヒトは似ているが見方や脳の発達の仕方が違う。2歳前から子どもは人の心を理解してまねる。
- ・相手の行動を理解する上で、ミラーニューロンシステム（相手と全く同じ行動をする時のシステム）とメンタライジング（自分と相手を切り離し行動を考える能力）が大切。→親にとってもとても大切なこと。

◆お客様の声（実施のアンケートより）

- ・ヒトとしての脳の発達と胎児からの生活環境の改善を、どのようにして大人から次世代を担う子どもたちに伝えていくべきか、どのような環境を整備、提供していくべきか。人として、日本人としてのDNAを受け継いでいくことへの早急な改善が求められることを痛切に感じました。（50代 女性）
- ・「子どもが育つ、親も育つ」という言葉が印象に残りました。メンタライジングという、自己と他者を切り離して理解し、相手の心を思いやり、行動する能力が人特有の能力と知り、目からうろこが落ちました。（40代 男性）

8-2. プログラム④



9-1. プログラム⑤

パネルディスカッションⅠ

16:00～16:45

テーマ

「日本人のあるべき姿－21世紀像」

◆モデレーター：湯山 茂徳氏

◆パネリスト：長谷川 眞理子氏、伊藤 元重氏、岸 輝雄氏、明和 政子氏

◆ディスカッションの内容

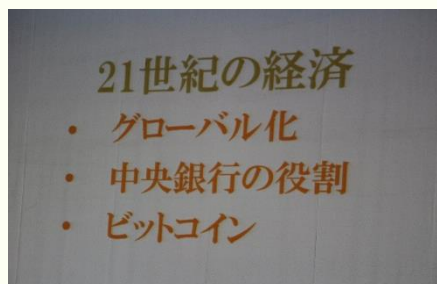
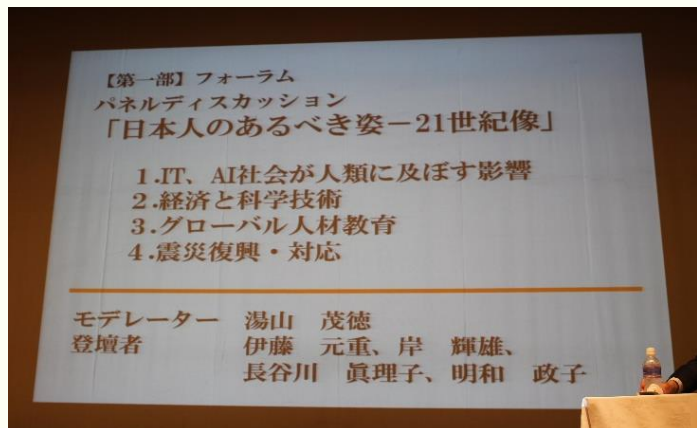
①IT, AI社会が人類に及ぼす影響

- ・IT, AIは、人間の代わりにはならない。IT, AIを何のために使うのが大切。（長谷川先生）
- ・次世代の子どもたちのために、価値判断やIT, AIを使う指針を早急に決定すべき。
身体経験が脳を作るので、身体のないAIは、人間にはなれないだろう。（明和先生）
- ・10年前の専門家の予想を今、遥かに超えている。（伊藤先生）
- ・日本が抱える大きな問題は、少子高齢化と人口減少がある。IoTが人間の一端を担ってくれば、少子高齢化等の問題は気にならなくなるかもしれないけれど、その時人間が幸せかは分からない。（伊藤先生）
- ・便利な社会になり、格差が増大されることにつながるのではないか、物事をよく考えない、知力の不足した人間がたくさん育つのではないか、という心配がある。（岸先生）
- ・自分の楽しみや自己を高めることに時間を費やすと少子化は必ず生まれる。（長谷川先生）
- ・自分でやらなくてはという意識が日本で高まっている。それは、間違った意識。一人で育てられるわけがない。社会で育てる。この考えを社会的に理解する必要がある。（明和先生）
- ・財制度が次世代の貯めに機能しない。日本人が将来に投資しなくなっている。（伊藤先生）

②経済と科学技術

- ・気候変動が問題。CO2の排出量を削減するために燃料で走る自動車を減らさないといけない。
（伊藤先生）
- ・科学技術の安全性が一番問題。国が福島原発のために体制を置いたのにもかかわらず、未だに議論されないのはいかなものかと心配になる。エネルギー源としてどうするかも大きな問題。
誰もが自然エネルギーに行けばよいと思いつつ、経済を考えると原子力をどうするかという状況。
政府が先頭に立ち、国民全体の大きな議論の中で決めていく問題である。（岸先生）
- ・非正規雇用が増えていることも科学技術行政の中で解決していくべき。（岸先生）
- ・科学技術が進歩すれば進歩するほど、国民の漠然とした不安が募り、科学技術との間に格差が生まれる。その格差をどのように埋めていくのが課題。（伊藤先生）
- ・科学技術には光と影があることを理解しなくてはならない。（岸先生）

9-2. プログラム⑤ パネルディスカッション I



10-1. プログラム⑥

パネルディスカッションⅡ

16:55～17:40

テーマ

「日本人のあるべき姿－21世紀像」

◆モデレーター：湯山 茂徳氏

◆パネリスト：長谷川 眞理子氏、伊藤 元重氏、岸 輝雄氏、明和 政子氏

◆ディスカッションの内容

③グローバル人材教育

- ・ご両親が経済的に豊かか、豊かではないかに関係なく、子どもの働きかけに対してしっかりと応答してくれる人が社会にはいるはず。それが無くてはいけない。それは、親だけではなく、近所のおばちゃんでも兄弟でもだれでも良いが、やはり子どもが働きかける、信頼できる大人がいて、その人がしっかり自分に対して、働きかけてくれる。このようなことが社会のシステムとしてあることによって、子どもたちの学力がしっかりと育まれていくのではないかと思います。（明和先生）
- ・五感を使っていろいろなことを体感することにより、他の世界、他の人、他の事柄を想像できるようになるための素養ができるのが就学前。本当に、遊びまわること、触れること、食べることが非常に重要なことである。それを現代の社会は認識していない。（長谷川先生）
- ・大学のランキングが下がると海外からの留学生に影響している。日本の大学の問題は、教官が非常に忙しくなって、競争的な状況に踊らされている大学が大きな負荷に耐えられなくなっている。一番大事なことはやはり教官が世界のトップになる意識を持つことと素晴らしい大学院の学生を育てることに焦点を置く必要。（岸先生）
- ・国も大学も誰かがこうでなくてはいけないと上から独断で決めたことだけをするのは、良くない。変化に柔軟に対応することが大切。（伊藤先生）
- ・キーワードは「ダイバーシティ」、多様性。大学間、大学院間でいろいろな先生のところ学ぶ、横のつながり、オールジャパンの中で、意識の高い、モチベーションの高い学生を日本全体に奉げる。これが今の大学教育で一番やるべき、やれるべきことだと考えます。（明和先生）

④震災復興・対応（Support Our Kids 紹介映像放映）

- ・今まで経験してきた事を教訓として、次に起こりうる災害につなげていく事が大切。（伊藤先生）
- ・ある程度の予測ができる場合もあるということを考えておく必要がある。（岸先生）
- ・日本は四季がはっきりしていて、必ず変化する、同じものが続くことはない。火山、地震などたくさんある。そういう意味で日本は、変化の中で諦めというのが必要な文化。（長谷川先生）
- ・被災した子どもたちが経験した悲しいできごとを如何にポジティブに捉え、次にどう生かすかが大切。映像を見て、子どもたちはそのような機会を得て、次に進むことができたのだと感じました。このように社会ができることはたくさんある。次世代はみんなの子どもと捉えながら対応していきたいと思います。（明和先生）

10-2. プログラム⑥ パネルディスカッションⅡ



就学前教育の重要性と 就学前及び初等教育の在り方



震災復興・対応



11. 第二部：懇親会





▲八芳園 井上専務による茶室のご説明



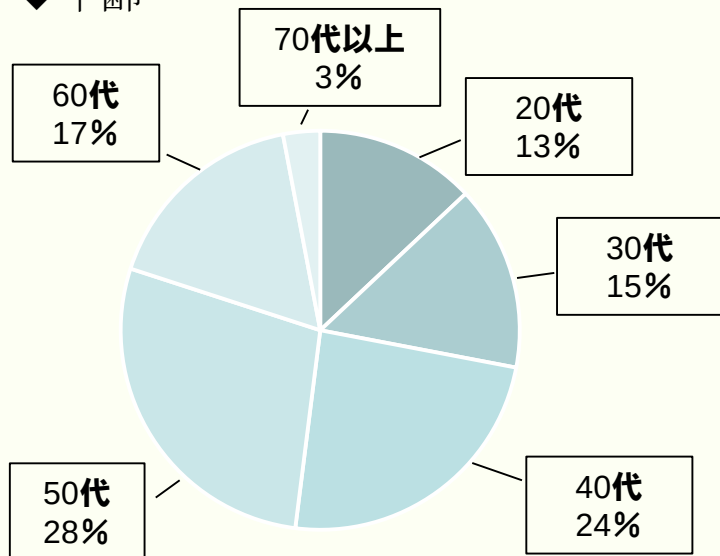
▲西川扇衛仁先生による日本舞踊「祈り」

12. 受付

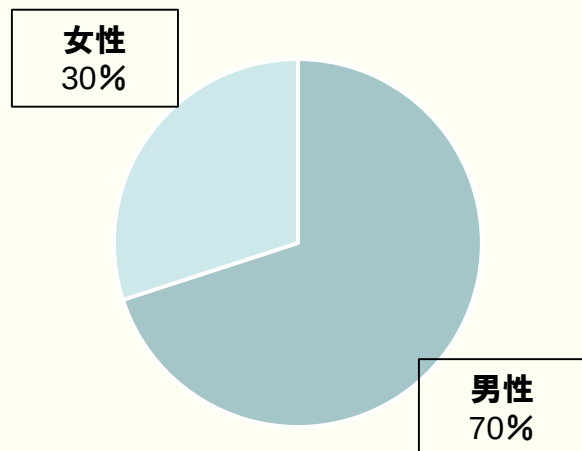


13. 参加者アンケート

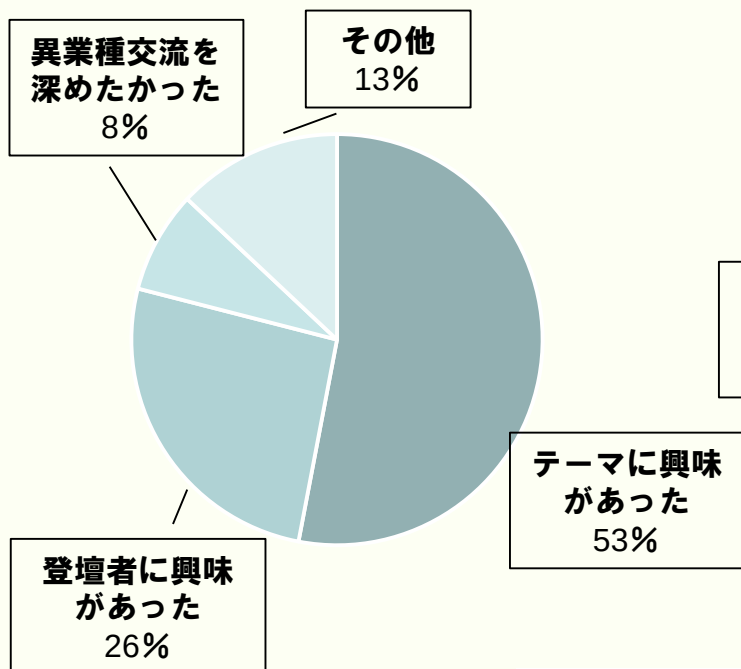
◆年齢



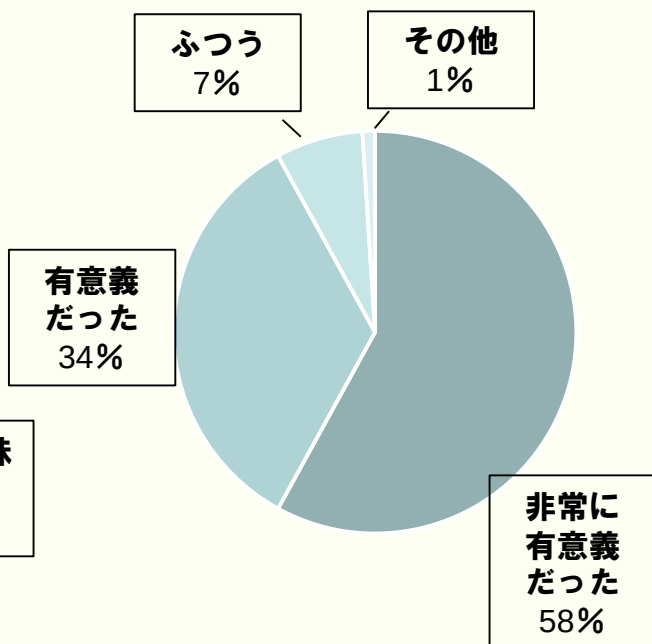
◆性別



◆参加の動機



◆フォーラムの感想



14. お客様の主なコメント

- ・ 4つの異なる研究者がそれぞれの観点から1つのテーマについて話し合う機会を生でお聞きする事は今までなかったので、大変面白く聞けました。
(30代 男性)
- ・ 難しい内容かと想像しておりましたが、先生方のわかりやすい講演とその後のパネルディスカッションで大変勉強になりました。(30代 男性)
- ・ 最後のディスカッションでは、各分野の見解が聞けたので、新鮮であった。
(40代 男性)
- ・ 普段にはない発想で、ホモサピエンスの原点から現代社会をとらえ直す着想に驚き、発見がありました。日本のおかれている課題も冷静に科学的分析を行えば、解決できるのではないかと期待が生まれました。(40代 男性)
- ・ 一般企業の講演会と違い、学術分野での講演は初めてでした。大変、参考になりました。ありがとうございます。機会がありましたら、又、参加させていただきます。(50代 男性)
- ・ さすがに我が国トップの学者の揃い踏みは、迫力満点。やはり限定時間では、もったいない感じがした。(60代 男性)
- ・ 28年間生きてきた中では、自身の周りの世界感での学びのみであったが、これからは更に知らない世界に入り込んでいこうと思います。
学びは、楽しいですね。ありがとうございます。(20代 女性)
- ・ Iot、M2Mなど自身の関わっている分野で今後どのように社会貢献していけるか、改めて考えさせられました。また、その際にキーワードとなるアイディアを学べたと思います。(30代 女性)
- ・ 先々の日本を考えさせられるとても奥の深い話でした。経済と人間としての存続、進歩と今は不用な環境など、相反する人間の私利私欲が続き限り、心の豊かな生活を得ることは、難しいのかも知れません。(50代女性)
- ・ あっという間に閉会になってしまったと感じるほど、興味深いお話が続きしました。専門的なお話を伺うことができ、とても幸せな時間を過ごせました。ありがとうございました。(50代 女性)

17. 制作物 (パネル)

◆A1パネル 仕様 594×841



学術フォーラム

「人類学・経済学・工学・教育学者 が共創する日本の将来図」

特別協賛

一般財団法人 日本児童教育振興財団

協賛
(五十音順)

**朝日生命保険相互会社**

**docomo**

**鹿島**
KAJIMA CORPORATION

**Kōito**

**SHINWA**

**NIPPON
PHYSICAL
ACOUSTICS, LTD.**

**山梨県**

**三菱電機株式会社**

日時	2016年5月7日(土)	後援	外務省
	第一部: フォーラム 13:00~17:40		経済産業省 (申請中)
	第二部: 懇親会 18:00~19:30		総務省 (申請中)
会場	八芳園 東京都港区白金台1-1-1	特別協力	八芳園
主催	特定非営利活動法人 次代の創造工房	協力	株式会社 LA DITTA
URL	http://www.pocket-ae.com/		ヒーローズエデュテイメント株式会社
			Support Our Kids 実行委員会

**次代の
創造工房**

18. 制作物（ホームページ）

-学術フォーラム-

人類学、経済学、工学、教育学者が共創する日本の将来図

1. 開催趣旨:

日本が直面する問題・課題は、少子高齢化の進行、21世紀型産業構造への転換、教育や福祉などにおける21世紀型社会システムの再構築、そして政治、経済、安全保障など日本を取り巻く世界的環境の激変に対する対応など様々です。本フォーラムでは、人類学、経済学、工学、教育学の学術分野で、日本を代表する第一人者に参集を賜り、日本が抱える課題の解決に向けて、それぞれの分野が担うべき役割、そして日本のあるべき将来像について講演して頂きます。最後に全員が参加するパネルディスカッションにより、誰もが幸福に暮らす日本を創るために進むべき道筋について、専門分野を超越し、横断的で総合的な討論を行います。これを基に、21世紀型モデルとして、世界の模範となるべき日本の将来像を共創します。

パネルディスカッション
16:00～17:40

日本人のあるべき姿—21世紀像

モデレーター



湯山 茂徳氏

参加パネリスト



長谷川 眞理子氏



伊藤 元重氏



岸 輝雄氏



明和 政子氏

2. フォーラム開催概要

開催日時 : 2016年5月7日(土)

開催場所 : 八芳園(東京都港区白金台1-1-1)

主催 : 特定非営利活動法人 次代の創造工房

協賛 : 一般財団法人 日本児童教育振興財団、三菱電機(株)、(株)小糸製作所、朝日生命相互保険会社
信和産業(株)、日本フィジカルアコースティクス(株)、ビッグホリデー(株)
(株)NTTドコモ、鹿島建設(株)

後援 : 外務省、経済産業省

特別協力 : 八芳園

協力 : 株式会社LA DITTA

スケジュール:

【第一部:フォーラム】

13:00～13:10 : オープニング:湯山茂徳氏(実行委員長) 開会のご挨拶

13:10～13:40 : プログラム①:長谷川眞理子氏 「人類進化史から見た現代社会」

13:50～14:20 : プログラム②:伊藤元重氏 「日本経済再生への道」

14:35～15:05 : プログラム③:岸 輝雄氏 「科学技術による外交」

15:15～15:45 : プログラム④:明和政子氏 「ヒトの心を育てる教育とは」

16:00～16:45 : プログラム⑤: パネルディスカッションⅠ「日本人のあるべき姿—21世紀像」

16:55～17:40 : プログラム⑥: パネルディスカッションⅡ「日本人のあるべき姿—21世紀像」

【第二部:懇親会】

18:00～19:30 懇親会

資料のダウンロード

[フォーラム詳細資料](#)

[企業協賛申込書](#)

[一般参加申込書](#)

フォーラム会場:八芳園

